

かがやく

ハーモニーひたちなか

第10号
2011.3発行
編集/発行
ハーモニーひたちなか
ひたちなか市女性生活課

茨城県ハーモニー功労賞を受賞

ハーモニーひたちながが、平成22年度の茨城県ハーモニー功労賞を受賞し、11月24日に開催された「ハーモニートップセミナー」において、橋本県知事より表彰状と盾が授与されました。
今回の受賞は、地域において男女共同参画の実現に向け、市と協働でさまざまな取組みを行っていることが認められたもので、ハーモニーひたちなかの10年にわたる熱心な活動が実を結んだといえます。



橋本県知事から表彰状と盾を受取る小坏会長



受賞を喜ぶ歴代会長



賞状と盾

「ハーモニーひたちなか」は、男女共同参画の実現をめざす市民団体・グループの連合体で、平成19年に結成されました。現在は、13の団体がネットワークを組んでハーモニーフェスタ、講演会開催など啓発を中心に活動をしています。
みなさんも一緒にハーモニーひたちなかで活動しませんか。



「これから」

ハーモニーひたちなか

顧問(初代会長) 俣山 禮子

「ハーモニーひたちなか」が、このたび茨城県から「ハーモニー功労賞」を受賞いたしました。大変うれしく思います。

「ハーモニーひたちなか」が誕生して約10年、その間の皆様方の努力と活動の成果だと思えます。「男女共同参画社会をめざす」とは時間のかかる活動ですが、家庭や職場で変化がみられるようになったと思います。

男女共同参画社会の実現は簡単ではありませんが、熱意と希望をもって連帯を深めていけば必ずできると思います。

「ハーモニーひたちなか」頑張りましょう。

ハーモニーひたちなかフォーラム

1日目の30日は、男女共同参画に関する講演会、作品表彰、事業所表彰を行いました。



講演会：「パパのトリセツ～イクメンになる方法を教えます～」

講師：おおた としまさ さん



皆さんは、「イクメン」ってご存知でしょうか。「イケメン」をもじってできた造語で、育児に積極的に参加する男性を「イクメン」と言うそうです。

なぜ、今イクメンなのか、不況の反動で家庭回帰となったとの説もありますが、多様なライフスタイルが認められる時代のなかで、パパの育児参加はごく自然な流れなのかもしれません。

実際、子どもがパパに抱きつく時期はほんのわずか。理屈なしに子どもと楽しみたい、信頼されたいと「イクメン宣言」する男性たちが増えているそうです。有名人でも、つるの剛士さん、乙武洋匡さん、品川祐さん、おちまきとさん等多くの方が名乗りを上げています。そして、平成22年6月、国が「イクメンプロジェクト」を立ち上げたこともあり、現在は「イクメン委員会」の誕生、「イクメンサミット」なるものも開催されているそうです。

講師のおおたとしまささんは、フリーライターのかたわら8歳、5歳のお子さんの育児に積極的に参加、「パパの悩み相談横丁」ホームページを立ち上げ「育児カウンセリング」をしています。まさに「イクメン」のオピニオンリーダー（※）。

おおたさんは、イクメンになるコツを「パパの育児では量より質」と話します。「働く父親が子どもとの時間を多くとることは難しい。しかし、ちょっとした心遣いで、子どもとの信頼は築ける」と。例えば、遅い帰宅が続くときは、交換日記をつけたり手紙を書く。また、休日でも朝寝はしないで家族そろっての朝食を。たまに会えたときは、「今日は会えて嬉しいよ」と言葉にする。

また、夫が育児参加することで妻の育児不安が安らぎ、子どもの活力はパパを元気にさせるという。

しかし、こんな恐ろしいことも。「子どもが1歳半までに子育てにかかわらなかったパパは、子どもが10歳になると捨てられるかもしれない」…ドキッとするパパもいるかもしれません。

「イクメン」は家族を大切にする男性の総称なのです。聞いてみればなるほど納得。ちょこっと目線を変えるだけで「イクメンパパ」の仲間入りができそうな気がしますね。みなさんいかがでしょうか。

※オピニオンリーダー

集団の意見や行動、判断に関して影響力をもつ人

男女共同参画に関する作品表彰

小学生から大人まで、430名441作品の応募がありました。
たくさんのお応募ありがとうございました。

最優秀作

● 仕事もだいじ 家庭もだいじ 両方だいじにがんばろう 大河原 駿さん

優秀作

● 優しさと力強さと明るさと スクラム組んで元気な社会 藤咲 芳枝さん

● 一緒に学ぼう 一緒に働こう 一緒に暮らそう 一緒に生きよう 須田 早貴さん

佳作

● 考えよう あなたの意識で 社会が変わる 山田 晶さん

● 仕事と家庭 共に分かち合い つくろう明るい未来 白戸 美香さん

● 作り出す 認め 助けて いい社会 澤畑 月乃さん

ヒタチナカ2010開催 みんな仲良く生きてゆこう～

日にち 平成22年10月30日、31日
場所 ワークプラザ勝田

ハーモニーフェスタ2010

2日目の31日は、「ハーモニーひたちなか」所属団体や男女共同参画センター利用団体の活動を紹介するパネル展示をはじめ、牛乳パックや貝殻をリサイクルした工作や墨絵体験など、親子で一緒に楽しめるコーナーも多く、たくさんの親子連れでにぎわいました。また、パパと子どもの料理教室では、「いつもやっています」とパパから頼もしいコメントもあり、会場はたくさんの笑顔であふれていました。

詳細については、パソコンから、

<http://www.city.hitachinaka.ibaraki.jp/0611jyoseiseikatu/josei/index.html>

または、ひたちなか市ウェブサイトを検索し、「男女共同参画」→「ハーモニーフェスタ2010」をご覧ください。

活動紹介パネル展示



親子で料理教室



茨城高専ジャグリング同好会



牛乳パックでハガキづくり



墨絵でしおりづくり



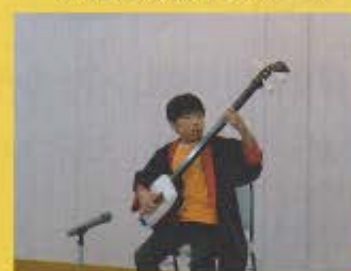
ひたちなかマジッククラブ



貝殻でストラップづくり



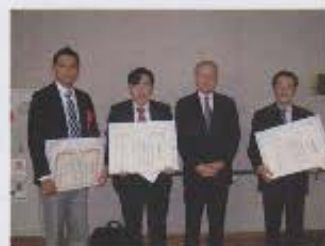
津軽三味線コンサート



男女共同参画推進事業所表彰

ひたちなか市では、男女共同参画に積極的に取り組んでいる事業所を表彰しており、平成22年度は次の3事業所を表彰しました。
(五十音順)

株式会社 アサイン (中根)
株式会社 三和精機 (武田)
株式会社 高木製作所 (勝倉)



左から三和精機、高木製作所、本間市長、アサイン

働き世代の男性は「一家の大黒柱」と期待されても？

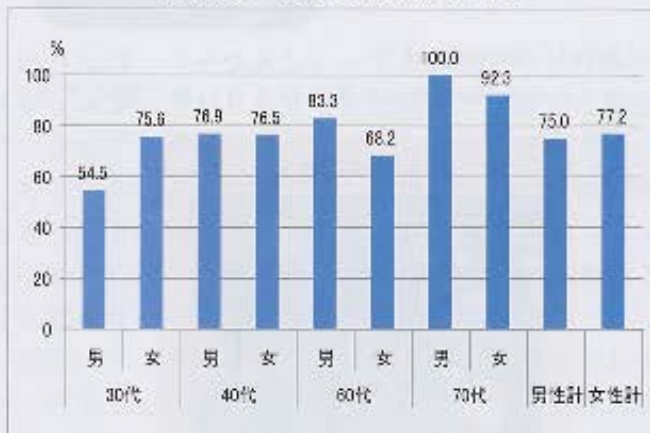
～ハーモニーフェスタ2010会場でのアンケート結果から～

回答者は女性114人、男性44人

アンケート項目は「男は一家の大黒柱」「結婚するのは当たり前」「将来、女の子は近くにいるほしい」など10問。回答しやすいように「ハイ」「イエ」で答えていただきました。

回答者の中には小学生や高校生もいましたが、数も少ないことから20歳未満、20代、50代、80歳以上は割愛しました。以下は回答者の男女の比率や回答者数の偏りも勘案しての考察です。

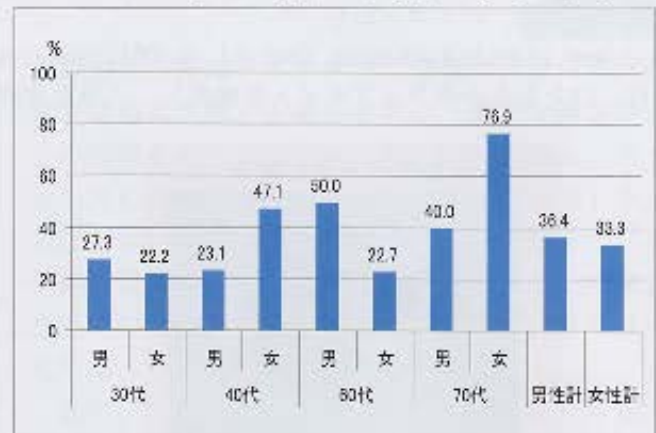
Q男は一家の大黒柱だと思う



どの年代も半数以上が「男は一家の大黒柱だと思う」との考え方を支持し、男性には一家の稼ぎ手としての役割が期待され、女性の方がその意識が高くなっています。とくに30代女性は「男は一家の大黒柱」と期待しているにもかかわらず、同年代の男性自身はというと、現代の経済的、社会的不安を背景に自信が持てないのか、2割も低く、「一家の大黒柱」と期待されても、といった気持ちがあるようです。

社会は、女性も働き、ともに責任を担うことを求めています。家族の中では男性は相変わらず一家の稼ぎ手として、その重荷を背負わされていることがうかがえます。

Q夫の暴力は、妻にも原因があると思う



11年前に実施した同様のアンケートでは「DV＝配偶者間の暴力」がまだ今ほどクローズアップされていなかったため、圧倒的に被害者は女性が多かったにもかかわらず、約6割の女性が「暴力の原因」は妻にもあると答えています。

しかし、男性から女性への暴力の背景には、女性を支配することが男性の役割であるとのゆがんだ「男らしさ」や男女差別意識があります。

DVは犯罪であるとの社会的認知度も高まっていますが、いまだに3分の1以上の男女が「夫の暴力は、妻にも原因がある」と考えています。

DVの根絶には男女の固定的な役割分担意識や差別観などを解消していくことが求められています。

男女共同参画センターからのお知らせ

★図書コーナーに新しい本が入りました。気軽にご利用下さい。



pick up!!

- ・老いの才覚 曾野 綾子 著
- ・女性のからだの整体法 野村 奈央 著
- ・断舍利 やましたひでこ 著
- ・くじけないで 柴田 とよ 著

★センターでは各種講座を企画・開催しています。詳細は市報でご案内いたします。

お問合せは同センターまで

TEL&FAX : 029-354-0167

E-mail: danjo282@juno.ocn.ne.jp



編集後記

「週末のある日」

私「私今日は仕事、角切り肉があるからシチューに挑戦してみたら？」
夫「肉ジャガを作るよ」
私「普通は角切り肉で肉ジャガは作らないでしよう」
夫「へえー、そうかい？」
結局、ユニークな肉ジャガを食べる機会はいえましたが、これが平均的な選歴世代なので、今度は一緒に作りましょうね。」

